

## 2 「とちぎ将来構想(仮称)」の構成素案

### 第一部 栃木県の展望と課題

#### 第一章 栃木県の将来展望

少子高齢化、グローバル化など、今後大きな変化が予測されるテーマについて、我が国全体や世界のトレンドを見据えながら、可能な限り長期（21世紀中葉を目標）の将来展望を示す。

- 1 記載にあたっては、我が国や栃木県の将来を長期的に見通し、その上で本県の進むべき進路、とるべき政策を想定していく。
- 2 将来の見通しは、現在の課題や将来のトレンドをもとに、**可能な限り長期的**なものとする。

（記載テーマの例）

##### 少子高齢化・人口減少の時代：

人口減少時代への移行、高齢化の進展、労働力人口の減少、価値観・人生観の変化、社会保障コストの増大 など

##### 社会経済（産業や労働など）のあり方の変化：

アジア諸国等との国際競争の激化、3次産業等のウエイトの拡大、研究開発や商品開発力の重要性の高まり、終身雇用・年功序列制度の崩壊、就業意識や形態の多様化、外国人労働者の受け入れ、ワークシェアリング など

##### 地域のあり方の変化：

産業構造や労働形態等の変化、中心市街地の衰退、農山村の活力低下、行財政の逼迫化と投資余力の減少、官民の役割分担見直し、NPO など市民参加意欲の高まり、地方分権化への移行、広域合併や道州制、人々の連帯意識の低下と地域コミュニティの機能低下 など

##### 環境の世紀、水・食料・エネルギー等の制約：

地球温暖化問題の顕在化、循環型社会への転換、廃棄物の適正処理、省エネルギー、新エネルギーへの転換、水・食糧・エネルギー不足の可能性、化学物質による環境汚染の可能性、自然保護意識の高まり、生物多様性の確保 など

##### グローバル化の進展：

世界規模の市場経済化、国際競争の激化、国際交流の活発化、外国人観光客の増加、外国人労働者の増加 など

##### 高度情報ネットワーク化の進展：

情報通信技術の進展、インターネットの普及、デジタルディバイド問題、システムダウン等の可能性 など

##### 意識や行動様式の変化：

価値観の多様化・個性化、自由時間の拡大、様々な組織や活動への参加、過度な個人主義志向、健康志向、女性の社会進出 など

##### 教育・人づくり：

青少年の心の教育の重要性の高まり、多様な教育制度、基礎学力の向上や高等教育の必要性の高まり、大学再編への対応、教員の資質向上の必要性 など

## 第二章 栃木県の課題と可能性

### 1 栃木の現状と特性

立地条件、地勢と自然、気候、地域構造、県民性、産業などの様々な集積、県産品、くらしの特性や県民性など、栃木の可能性と課題を考える上で必要な現状と特性を記述

### 2 栃木の強みと可能性 / 栃木の課題

第一章において展望した将来のトレンドと「栃木の現状と特性」から、今後予想される変化に対応していく上で、本県が伸ばしていくべき優位性や強み、本県の特性を活かす可能性、特に課題となると考えられる事項を記述

### 3 栃木の将来目標

栃木県が今後目指すべき目標を、第一章において展望した将来のトレンドと第二章における本県の可能性、課題の検討から、本県が目指すべき目標を記述

## 第二部 県政の取組方向

第一部で見通した栃木県の展望、課題、可能性から、県政において想定されるシナリオを作成し、戦略的な方向性を示す。

記載は、将来展望により県民ニーズが大きく変化すると予想される事項、取組方向の見直しが必要と予想される事項などに極力絞り込むこととし、網羅的なものとはしない。

- 1 県が自ら行うものだけでなく、県民に期待するもの、市町村などに期待するもの、国などに提言していくものを含めて考える。
- 2 基本的に、10～15年後(「とちぎ21世紀プラン」の次世代で具体化していくものなど)を想定し、長期的な視点から取り組むべき課題についても積極的に記載していく。
- 3 将来実現すべき県民生活の姿や想定される課題に対応するために有効なものを、現在の状況や既存の政策にとらわれず発想していく。

